

Feeling excited

Dance with Heart  
The Kikunokai Troupe  
We are burning with enthusiasm  
in creating national art for  
the new era.  
Chairperson Michiyo Hata

# 日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会  
〒161-0031  
東京都新宿区西落合 2-21-23  
03-5983-6001 (代表)  
菊の会京都八瀬研修所  
〒601-1254  
京都市左京区八瀬野瀬町 10  
075-712-8701 (代表)  
<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



「乙女竹」(京都 嵯峨野)於

## 平成21年度の目代清賞 「創新賞」の受賞



舞踊評論家  
三枝孝榮



「創新賞」は故目代清氏が常々日本舞踊の「伝統と創新」ということをいつて居られ、その遺志によって創作性のある優秀な舞踊作品を対象として、従来の舞踊関係の表彰制度と違う画期的な賞として、邦楽と舞踊社により創設された。第一回目は花柳寿南海以下、尾上菊之丞、藤間紋寿郎、中島勝祐、仙田容子の錚々たる方々が今まで受賞している。今回は畑道代さん主宰の「菊の会」の創作活動の足跡を含めて、踊り風土記「雪の華」ほか作品が選ばれて受賞した。選考過程でも畑さんが昭和四十七年に菊の会を設立して以来の数多くの創作活動の一貫した実績も大きく評価された。菊の会は日本を誇るべき芸術である舞踊を一般に理解され、普及するようにとの畑さんの考えで、日本全国の公演や、スタジオのアトリエ公演、更に海外にまで範囲を広げて、日本の古典舞踊、各地に伝わる民俗芸能の舞踊化を目的とする舞踊集団として組織された。またその中の目玉として長編舞踊劇を三隅治雄氏の作、演出による上演も重ねている

のも周知のとおりである。それらも最初の「おけさ海を行く」、そして代表作として知られる「カッチャ行かねこの道を」などドラマ性のある作品を次々と発表し、その精神的な舞踊活動は舞踊界でも注目されていた。また次の世代に伝承することを含めて「民族舞踊詩」そして各地の民謡から題材とした「ふるさと囃子」「燃えよ日本列島」そして「土踏・波踏・舞踏」など菊の会の特徴を出した作品は三十数作品に及んでいる。受賞対象の「雪の華」も今迄の実績をもとに製作した秀作であろう。ところで畑さんは日本舞踊・尾上流の尾上菊乃里としての活躍も大きい。私が初めておめにかかったのは昭和三十一年、まだNHKで舞踊の番組を担当していた時、初代の菊之丞氏がテレビ出演された時だった。その時先代から「流儀で若い優秀な人」と紹介されたのが菊乃里さんだった。早速当時若い人の舞踊番組の創作で「野路の月」や「二人静」というタイトルの番組を放送した。従って菊乃里さんの古典もよく拝見して、そのしつかりとした舞踊表現に接していたが、リサイクルを開かれるようになり拙作「糸紋」という作品も踊っていた。この時のその振付には何回も練り直し、再演をした時には更に振りをもう一度研究されて内容を充実され、その創作への情熱に感動した。今後菊の会の舞踊への意欲が更に日本の舞踊界に大きく貢献、普及されることを望んでやまない。



御挨拶  
舞踊集団 菊の会  
代表 畑 道代



秋も深まりゆく季節となりました。皆様には益々御清祥にお過ごしのことと存じます。今も、今迄と変わらず同じ活動を続けられます事に、心から感謝致しております。これも偏に支えて下さる皆様のお蔭です。又菊の会事務局も、各教室の担当講師、助師、責任者をはじめとする役員も全力で活動を進めてくれています。去る七月二十七日には邦楽と舞踊社より「創新賞」を頂く事が出来ました。

これは日大芸術学部教授の故目代清先生を記念して創られた賞で菊の会の長年続けて来た創作活動に対し、特に昨年発表した、「踊り風土記「雪の華」」を代表として頂く事が出来ました。受賞の席には作者の三隅治雄先生はじめ、駐日パトリオン王国特命全權大使ハリー・ビン・イブラヒム・ハッサン博士と日本チュニジア協会小野安昭会長が御出席下さり、私共ばかりではなく日本文化、伝統文化を支える者への大きなお励ましのお言葉を頂く事が出来ました。又審査委員を代表して三枝孝榮氏より初代尾上菊之丞師の生前のお話もして下さい、何より嬉しいお言葉でした。志半ばで旅立たれた目代清先生の思いの一端を目指し、又その志を継いで「創新賞」を創られた中野義徳社長の日本舞踊に対する思いを同時代に生きる者として菊の会は全力で頑張つて参る所存です。これから始まります秋の公演、そして京都のアトリエ公演、今まに行われている、文化庁助成事業の九州の学校公演、来年のメキシコ公演の劇場下見、そして東京の年忘れアトリエ公演に全力で取り組んで参ります。どうか変わらぬ御指導、御支援の程を、何卒よろしくお願い申し上げます。

## （踊り手） 舞踊家の条件

（社）現代舞踊協会常任理事  
日本女子体育大学名誉教授  
金井芙三枝

私は無駄のない自然の動きは蛇動（波状）運動であると考えています。動きのモトは体の中心部（丹田）、どんな動きも、そこから発しています。骨盤の中から末端へと動きが伝わり、伸び伸びとした柔軟で強靱な運動になります。ピアニストが演奏する時にも、野球のイチローが打つ時にも、この基本は変わりません。このことを一から学ぶにはモシー・フェルデンクライス（1904～1984）メソッドが最適です。仰臥して全身の力を抜き、動いていく内部の筋肉や骨に注目します。動きを極限まで行わずに、ごく小さい動きを出るだけゆっくり丁寧に、内部感覚を味わいな

がら行なうと、どんな動きでもモトは丹田と、わかります。例えば最初は右脚ばかり練習します。すると右脚が10センチぐらい長く太く重たくなつたように感じます。次はイメージトレーニング。右脚で行なった動きを同じように左脚で行なうように筋肉の動きをイメージします。左脚はすこしも動かさずにイメージするだけで、不思議にも実際に行なっていると一回で、すでに上達しているのがわかる。レイスが終わると背骨が柔らかくなり、10才若返つた気分。こんな易しいレッスンでも脱落者が出ます。それは身体感覚の鈍い人で、身体内部のし、丹田を強力にします。

いのです。彼等は、不満そうに首をひねりながら去っています。私は「こういう人達は、踊り手にはなれないア」と気の毒に思い眺めています。近頃はダンスのレッスン前にフェルデンクライスやピラティスをしているところが多しと聞きます。こうすれば身体の故障も少なく素直な体になるので技術の上達も速くなるのではないかと思います。私は現在78才ですがピラティスは現在78才ですがピラティスは現在78才ですがピラティスは現在78才ですが...

## アトリエ公演の魅力



イラスト 仲代圭吾氏

シャンソン歌手  
仲代 圭吾

ユー・レイズミー・アップ

（あなたのときめく光の中で私は成長する）

私ま水手歌をうたって、います



三隅治雄先生と畑代表



舞踊劇「阿国かぶき」より



第11回さつき会「若き鬼達の讃歌」より



第11回さつき会 清元「津山の月」より



邦楽と舞踊社 中野 義徳社長

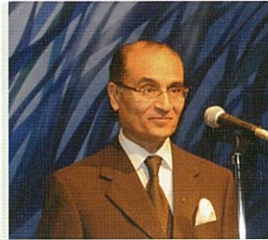
# 「菊の会」の創作活動の成果 「雪の華」が当社制定「創新賞」を受賞



藤田 洋先生



小野 安昭会長



ハリール・ビン  
イブラヒム・ハッサン博士

平成21年度第6回目代清「創新賞」に、畑道代率いる舞踊集団「菊の会」の踊り風土記『雪の華』ほかに決定して、受賞式が7月末東京千代田区のホテルで、選考委員の三枝孝榮氏、菊の会の作品創作を畑代表と育んできた三隅治雄氏、『雪の華』の映像作家でもある寺門邦次氏、

邦楽と舞踊出版社

中野 義徳

パーレン国ハリールハッサン駐日大使、元チュニジア大使小野安昭氏など、菊の会のこれまでの活動の幅を示すような大勢の人たちが駆けつけた。この賞は志半ばに天逝した日大芸術学部次長目代清教授の願いの実現への一助になればと、当社が6年前に創設したもので、その対象とするのは「作品」

文化庁芸術祭優秀賞受賞作品



舞踊劇「かっちゃ行かねこの道を」より



舞踊劇「藍の女」より



舞踊選集「花に舞う」より



踊り風土記「雪の華」より

でありその「創作性」に主眼を置いていたところが、数ある従来の表彰制度とは一線を画すユニークなものであることを自負している。  
「菊の会」は創設以来30有余年、一貫して、「伝統と創造」を標榜して、厳しい舞踊修業を続ける傍ら「日本のおどり」と題する公演活動を続けてきた。今「創作作品」に絞って過去の活動の軌跡を辿ると、大別して3つのジャンルに分かれる。第1は現代音楽や各地の民謡を使って、畑代表自ら自在な構成による「舞踊選集」と題する作品群で『新しい時を刻んで』のように表題はそのまま、内容は曲や振付を時流に合致したコンテツに一新しつつ上演してきた。第2は、骨格がはっきりしたドラマ性の高い長編舞踊劇で、作三隅治雄、構成、振付・畑道代で創られた『カッチヤ行かねこの道を』や『藍の女』『阿国かぶき』などがこれである。そして二つの流れの間として第3の「民族舞踊詩」と名付ける路線がある。初演時に感動を呼んだ四季の叙情『風道』(演出美術前田哲彦)や『雪の華』などの秀作がある。これらも三隅・畑コンビになるものである。  
永遠のロマンチスト畑道代は、あの細腕ひとつで日本で初めてというプロの舞踊家集団をつくりあげてしまった。そのプロは踊りだけでなく、広く各分野にわたるプロを育て上げてきたことが見事である。今後の菊の会自体の活動・若手育成もさることながら、その成長したプロたちが「尾上菊乃里リサイタル」を開いてくれる日を私も夢見よう。

## You Raise Me Up



左から 寺門邦次氏、仲代圭吾氏、畑代表、仲代夫人



アトリエ公演「花月雪」蝶より

片の仲代道代は演劇の世界で生きてきましたが、演劇の舞台、音楽のステージに出逢い、その都度感動の喜びを感じています。しかし今まで舞踊の世界とはほとんど縁がなく、その昔、青年の頃アルバイトで歌舞伎座の藤浪小道具で仕事をしていた時に歌舞伎役者の素踊りを観たことをおぼろげにおぼえている位でした。  
先日私の友人寺門邦次さん(現在菊の会本部長)のお誘いで菊の会を拝見。そのときめきの光にうたれ言い知れぬ感動をおぼえました。  
畑先生の卓越した演出のすばらしさ面白さそれぞれ個性の違う人達が日ごろの訓練の結果で一糸乱れつ調和し踊りの芸術を探究する精神の充実。その心。その時、私はまばゆい光を浴び、感動の世界に浸りました。人は生きていて何度かまばゆい光を与えられ、その感動と共に成長するものだと思います。  
今、私がレパートリーに入れようと思って練習中の曲、ユー・レイズミー・アップ。あの荒川静香さんが金メダルをとった時、優勝の喜びのエキシビションで演技したお馴染み曲、ユー・レイズミー・アップ。  
(あなたのおかげで私は成長する)  
正に菊の会の舞踊を観、ときめきの中でユー・レイズミー・アップです。

仲代圭吾

## 21年度文化庁本物の舞台芸術体験事業 菊の会公演メンバーによる学校公演



初めて打つ和太鼓の感想をインタビュー

菊の会ではこれまで、神奈川を中心に独自に学校公演を行って参りましたが、このたび初めて「平成21年度文化庁本物の舞台芸術体験事業」に採択されました。畑代表は「せっかく文化庁の事業として採択して頂いたのだから普段なかなか行くことの出来ない地域で、触れる機会の少ない日本の伝統舞踊の生の舞台を直接鑑賞して頂くことで日本



オープニングの獅子舞の登場に驚きと興奮の生徒の皆さん

やかに開幕、大変喜んで頂きました。続いて、船とバスを乗り継いで、香崎島の武生水中中学校259名そして、熊本県に移って111年の歴史のある桜井小学校393名、長崎に戻っての大浦中学校124名、最終日のみはる台小学校289名と各会場共に大きな反響を頂くことが出来ました。客席後方から囃子の演奏と

の風土に育った芸能の魅力と醍醐味を体験して日本人としての誇りをもって頂きたい...」とこの九州エリアを希望し採択されたもので、その思いを胸に長崎県4カ所、熊本県1カ所計5カ所でキャスト、スタッフを含め一行29名により11日間の日程で公演を行いました。



感謝の気持ちを寄せ書きにして・・・

初日は長崎県の美しい島々の五島列島のひとつ新上五島町の青方小学校195名、ご父兄や地域の方々も参加されての公演は子供達の歓声と共に賑



「春菊三番叟」

第一部最後の演目、『祝い太鼓』ではその迫力ある響きと体験コーナーで舞台上上がり、初めて和太鼓に挑戦した生徒に皆んなも手拍子で参加するなど舞台と客席が一体と

ともに『江戸太神楽寿獅子』の獅子舞が躍り込むと児童達はその意外な演出に歓声を上げ、間近に迫ってくる獅子に驚いたり、喜んだり触れてみたり積極的に関心を寄せ、『伝統舞踊』の体験事業と聞いて少々緊張気味の子供達の気持ちは一気にはぐれた様子でした。それから続く『寿菊三番叟』では稚児輪に結った日本髪や白塗りの化粧に美しい裾引き、長絹の古典を代表する日本の美しい装束に目を見張っていました。



お兄さんたちの真似をして・・・

なり大変に盛り上がりました。第二部では『日本の心を躍る』をテーマに日本各地の民謡や民俗芸能を熱演。楽器紹介をばさんでフィナーレの阿波おどりではカーテンコールで客席に降りた出演者と生徒達がひとつになった時の流れは文字通り、舞台芸術体験事業で、日本の美と日本人の心を若い世代にダイレクトに体験して頂く事が出来、日本文化への理解を伝える事が出来ました、そして実り大きい成果に感動と感謝を胸に帰京致しました。



友の会会長の小島三雄様  
(元鹿島建設株式会社副社長)  
が九月二十七日に御逝去されました。  
これまで菊の会に賜りました御厚情に心から感謝申し上げます、謹んで哀悼の意を捧げます。  
生前、小島会長は常磐津文字蔵師(中節家元都一中師)

### 小島三雄友の会会長 永い間本当に有難う御座いました



国立劇場の楽屋にて菊の会公演メンバーと共に (H20年10月26日)

に師事され、長年常磐津をこよなく愛しお稽古を続けてこられました。昨年の十月には国立小劇場に於きまして「釣女」で小島会長が立浄瑠璃を勤められ、私達菊の会が出演させて頂きました。会長も「菊の会のメンバーと共に演じられた事が何よりの思い出だった」と語って下ったと伺っております。  
又会長は、本年の菊の会「友の会」懇親パーティーにもお元気で参加なされ、続く五月の「さつき会」公演では若い後継のメンバーの舞台を温かく見守って下さり、皆の成長を楽しみにして下さっております。  
永年に渡り菊の会に対して御支援賜りました事に感謝申し上げます、心より御冥福をお祈り致します。

## INFORMATION 秋の公演予定

### 【八瀬研修所アトリエ公演】錦秋に舞う

10月 23日(金) 12時・15時半・18時半  
24日(土) 12時・15時半  
25日(日) 12時・15時半

チケット料金：4,500円全席自由(当日5,000円)

### 【日本のおどり】紅葉に舞う

11月 12日(木) 富山県教育文化会館(富山市) 15時開演のみ  
13日(金) 石川県立音楽堂 邦楽ホール(金沢市)  
19日(木) 千葉市文化センター(千葉市)  
20日(金) 日野市民会館(日野市)  
26日(木) 鹿嶋勤労文化会館(鹿嶋市)  
12月 1日(火) タワーホール船堀(江戸川区)  
4日(金) キラリふじみ(富士見市)  
8日(火) 山梨県立県民文化ホール小ホール(甲府市) 15時開演のみ  
10日(木) 町田市民ホール(町田市)

開演時間：14時30分・18時30分開演  
チケット料金：5,000円全席自由(当日5,500円)